



# 南洋地方の交通事情に就て

(四月十四日の理事會に於ける報告講演の要旨)

内 田 嘉 吉

神戸港から大阪商船のプリズベン丸に乗つて出發しましたのは昨年の七月一日でありました。それから香港やマニラ等を経由して濠洲へ直航しプリズベーン、シドニーからニュージールランドに行き、それからシドニーに歸り、メルボルンから汽船でアデレード、フリーマントルへ寄港して次に錫倫島に渡り、更にコロンボから島の北端に在るタライマンナルといふ處まで行き、それから船で對岸のダニシユ

コードに渡り、更に汽車でマドラスを経てボンベイへ赴きボンベイから汽船でシンガポールに直航し、シンガポールから瓜哇に渡り、スラバヤ、ノロ、デヨーチャ、バンドン等を経てバタビアから再びシンガポールに戻り、シンガポールから更にベラワンデリーまで參り、それからメダンの近傍を見て又船でベナンに行きそれから汽車でバンコックへ赴き、バンコックからサイゴンに向ひ、自動車及び汽車

を利用してツーランからハノイへ行きそれからハイフオンへ出で船で二三の港を経て香港へ着き、香港からマカオへ往復しそれから上海へ寄港して歸朝したのであります。

此道程全體は海路が二萬哩、陸行の汽車や自動車等約九千五百軒、之を軒で計算すると四萬五千軒になる、一日平均三百二十軒宛(約八十里)旅行した譯であります。

近時南太平洋及西太平洋の問題は各國共に研究の的となり我國に於ても將來西南太平洋には注意の必要あるに至つたやうであります、試みに西太平洋側の各地に就て見まするに、日本を始めとしてシベリア、支那、香港、佛領印度支那、暹羅、馬來半島(マレー聯邦、海峽植民地を含む)、フィリッピン、蘭領東印度、英領ボルネオ、ニューギニヤ、濠洲、ニュージールランド等であるが、これらの土地面積は約一千萬方哩に達し、其人口は約五億萬であります、今回私の巡遊したのは、シベリアと支那とボルネオを除いた以外の各地であります、私は往年遞信省に居つた頃、海運擴張の必要を感じ航海獎勵法や造船獎勵法を起草し定期航海

の施設を計畫したのであるが、其當時我々が政府に於て計畫した定期航路はボンベ、濠洲の二航路であつた、其關係で明治三十三年に香港、馬來、ジャバ、ビルマ、カルカット、ボンベ、コロンボ、アデレード、プリズベーン、フィリッピン等へ旅行した事があるが、爾來三十年を経過したる今日に於ては各地共それ相當進歩のあとを認められるのであります。以下私の旅行した順序により各地の視察概要を述べやうと思ひます。

**香港** 香港に就ては皆様も御承知で今更委しく述ぶる必要も無いと思ひますが、只だ一二の新しい現象に就いて御話をすれば、香港は最近海岸の埋立をして人家が可なり増加したこと、九龍方面が著しく發達したこと及び不景氣で爲替相場が甚しく悪くなり一圓に對して弗が六十五セントに下がつたので日本人には好いけれども香港其のものゝ貿易から言ふと不尠不利益のやうでありました。

**マニラ** は割合に景氣も良く此の附近の中心地として大分繁昌して居りました。此處ではフィリッピン獨立問題が

種々論ぜられて居り、米國政府でも獨立の維持が完全に出  
來得るに至れば獨立させても宜しいと言ふ意嚮のやうであ  
るが夫れは何時であるか見當が付かぬ様であつた。

太平洋航路の亞細亞側に於ける起點と云ふか終點といふ  
か、以前は夫れが香港であつたが、現今ではマニラ迄伸ば  
されて居る、此點は以前と大分事情が變化して居る、ルソ  
ン島の南にミンダナオ島がある、此處にはダバオと言ふ灣  
があつて日本人約二萬が麻や椰子を栽培し、勇躍して居る  
ことは眞に愉快に感じました。從來のザンボアンカ港の繁  
榮はダバオの方に移つたやうでありました。

それからブリスベン丸の航路はミンダナオ島の右岸を過  
ぎセレベスの左岸に出で更に木曜島を右舷に望んで船を進  
めると其處には珊瑚礁の大きなものがあり大陸を抱擁して  
居る、船は其の間を通り珊瑚礁の盡きる處に在るブリスベ  
ン河を遡航してブリスベン港に繫船しました。

ブリスベーン市は牛の輸出地で河に沿ふた所に、以前は  
牛肉の罐詰を造る會社が二ツ三ツあつた位に記憶して居る

が今では大分多くなつて居る、右岸には住宅も盛んに建つ  
て居る、川幅も廣くなり河畔の植物園等も見違へる程、立  
派になつて居る、市街も賑かになり市廳も建築に百五十萬  
圓要したとかで頗る立派であつた。

その市廳舎の開廳式には建物の頂上にある照明燈をイタ  
リーからマルコニーが無線で點燈したと言ふので、一ツの  
話の種になつて居る。ブリスベーンを首府とするクインス  
ランドには日本から穀を取り寄せて米を作つて居る處があ  
る、其の産額は千九百二十八年から二十九年に互る一箇年  
間に二萬五千噸に及び米質も宜しいやうであつた。ブリス  
ベーンとシドニー間には三時間計りで行ける飛行機交通も  
開けて居つた。

シドニーはニューサウスウェールズの首府であつて近頃  
我國へ羊毛が大分輸入されるので取引商用に多數日本人が  
行つて居る、メルボルン、アデレード、フリーマントル等  
へも往來して居る、在留邦人の質も従前より餘程良くなつ  
て以前の如く排斥される心配も無くなつて居る。目下シド

ニー灣には四千萬圓餘の架橋工事中であるが、之は今年中に竣工の豫定であつて大抵な船の橋なら橋下を自由に往來出来ることになつて居る。シドニー滞留の三日目即ち七月二十五日にユニオンライン會社のマウンガヌイ號といふ七千五百噸の立派な客船がニュージールランドに向つて出帆するといふので私は彼のキャプテン・クツクさへ惱まされたと傳へらるゝ波濤を忍びて五日目に漸やくニュージールランドに着いた。

ウエリントンはこのニュージールランドの首府で政廳もあり議會もある、入國料は一人十ポンドの定めであるが私は在濠洲の日本領事から此地の名譽領事へ紹介があつたので何等左様な手續もなく旅券の調べも簡單に視察も頗る便利であつた、ニュージールランドは十萬三千平方哩、日本の本州より少し小さいが地形や其他の有様が日本によく似て居る、總人口百五十萬人中に六萬五千人のマオリ人と言ふのがあつたが其他の大多數は英國のスコット系で仲々努力して居る。途中波浪高く難航だったので上陸は遅かつたけれ

ども直ぐに市内の視察を済まし夕刻になつてからワンガヌイに向つて自動車飛ばしました。

ワンガヌイに一泊して翌日また自動車でトンガリロといふ國立公園へ參りました、丁度我が輕井澤のやうな高い處で附近には澤山の噴火山があり眺望の雄大と雪景色は實に絶景であつた。そこにはホテル・シャトウといふ綺麗な旅館があつて種々のパンフレットや諸外國のインフォメーションの書物等が置いてあつた、私の行つたのは七月であつたが先方では冬のことので四面雪に埋もれて居つたけれども夏が來ればゴルフリンクもテニスコートも賑ふとのことであつた、晝食を済ますと四時頃になり冬のことゝて幾何もなく夕暗は迫まり大急ぎで又出掛けると折柄満月の晩で、月明に自動車を走らせレイク・タウポアの湖畔を隨分長い間ドライブしたが、月光が湖心に映つり夢の國でも旅行して居るやうな感があつた。

ワイラキに着いたのは午後九時頃であつた、此處には有名な間歇温泉があるのでマオリ人の案内で往つて見た

が自動車で二十分餘りの距離に在り湯は中々高く噴出して居た、泉質も種々あつて海水の通じて居る温泉もあつた、ニュージーランドが噴火地帯であることは之でも首肯される譯である。翌日は保養巡遊地と稱されて居る有名なロトルアへ向ひました。

ロトルアはワイラキと異なり平地の温泉地であるが温泉は澤山ある、綺麗な湖水もある、間歇温泉もある、設備世界一と誇稱して居る療養院もある、病弱者は入院して療養して居ながら電気浴や湯を浴る場所や湯に這入る場所等諸施設が仲々行届いて居つた、我國の神戸に久しく居たヤングといふ人の勸で視察したが日本の温泉にもあれ位の設備が欲しいと思つた、此處で晝食を濟ましてオークランドに自動車を飛ばし午後九時半に着きました。

オークランド市には十六の小山がある之は噴火した遺蹟といふことで私は其中での高い所から眺めると街衢も港も景色が明るく感じた。

此處も濠洲のやうに馬を大分使つて居た、立派な競馬場

もあつた、ロバートソンといふ英人の名譽領事と其の親友チャーレス・ロード君とは日本船を何故ウエリントンやオークランドまで航路を伸ばさないのか？航路の伸長は國威の伸長ではないかと言ふので、私は將來之が實現の機會があらうと答へて置いた、そして種々視察に便利を計つて呉れた。此處から船でシドニーに向つたが時化に遇ひ漸やく五日目の晝過に着くを得た。

シドニーでは去年濠洲聯邦政府が關稅を引上げて日本品の或種の物は殆んど禁止的高率となつたのを彼地にある日濠協會―オーストリー・ジャバン・ソサイティーの會長サー、ジョン・ベンデン氏、サドラ幹事其他の奔走で、前通りではないが非常に緩和されて居つた。シドニー市はニューサウスウエルズ洲の首府で、メルボルン市はビクトリア州の首府である、此の兩市の間にカンベラと云ふ處がある。

カンベラはシドニーから二百四哩、メルボルンから四百二十九哩の地にあつて濠洲中央政府もあれば中央議會もある、けれども漸く官衙と宿屋と僅かに商店が出来た丈け

野原の中に在ると想像すればよい、併かし市の面積は十二平方哩もあり領域は九百平方哩もある。翌日ホテル・カンペラを出て議會を見に行つたが、丁度開會中の衆議員議長は私の爲めに議長席の隣に特別の椅子を置いて呉れ、また總理大臣初め主なる人が續々私の處へ來て握手と挨拶を交したので落付いて見たり聞たりするを得ました。

**メルボルン**もシドニー同様に著しく發達して居る、私の行つた折は各州の首相が會同して財政經濟會議の開催中である。イングランドバンクのニューマイヤ氏も列席して居た、私はホテル・メンチに泊り附近を視察の上八月の十九日に此處から英國船オラマ號でアデレードに向ひました。

**アデレード**も段々發展して來た、此處の國立公園は非常に廣く市内に接近して居るので頗ぶる便利であるが彼のシドニーの國立公園は餘程離れて居る。ブリスベーン、シドニー、メルボルン、アデレード、フリーマントル等の間には飛行機が通つて居るから以前とは違つて大變便利になつて居る、それから再びオラマ號でフリーマントルに向つて

出船した。

**フリーマントル**の市街は港から少し距たつて居り自動車で約一時間を要した、濠洲の鐵道はゲーヂが各々違つて居るので頗る不便である、追て改良すると言つては居るが財政がそれを許さぬので自動車の方がグン／＼發達して行く。濠洲の面積は約二百九十七萬平方哩、人口は約六百五十萬で、詰り人口は我國の十分の一、面積は十何倍ある譯である、フリーマントルは新しい市街で羊毛の輸出と附近の金鑛とで繁昌して居る、以前はアルバニーが寄港地であつたが今は此處に移つたので、郵船會社の代理店をして居るメルボーンのタルゲツチなども此處に太きな倉庫がある、私はフリーマントルを最後として濠洲に別れを告げコロンボへと渡つた、此間の航海には九日間を要したのである。

**コロンボ**には九月の三日に到着し直ぐ錫倫島の中央政廳や立派な議事堂其他を巡視した、錫倫島には護謨、茶、椰子其他熱帶植物が繁茂し物産の輸出が盛んであるがタミール族とシンハレーズ族とは常に争を續け以て今日に到つて居

る。其の夜コロomboを出發し、翌四日の未明にタライマンナールと云ふ處に着いた聯絡船に乗り移り、正午少し前に對岸のダニシユコーヂーに着いて汽車に乗り、北東に向つて進みマヂユーレに着いた、マヂユーレはシワの大寺院を以て有名である、それからトリチノポリスを経て更に海岸沿ひにマドラスに向ひ、九月六日の朝エグモア停車場に着いた。

マドラス市はマドラス州の首府で人口五十萬を擁する、州政廳、州議會の兩院、高等法院、兵營等がある、私はスペンサー・ホテルに投宿して主なる處やヴキクトリア女皇工藝館、博物館、セオソフイー學院、水族館等を見た、それから汽車で二夜を費して九月七日の朝ボンベイ市に着いた、印度で感心したのは、コロomboからマドラスを経ンベール迄實に二千四百四十キロあつて九月三日夜から七日朝迄五日を要したが、濠洲と異なり列車の通る處は皆耕作地となつて居つたことである。

ボンベールは孟買州の首府で人口百二十萬、カルカッタに

次ぐ印度の大都會であつて棉花輸出と綿糸綿布の製造は世界的に有名である、孟買州政廳、州議會、博物館等皆立派な建築である、アボロブンダより眞直に海岸に印度の門といふのがあつて英國の皇族や總督の往來には此門から出入する由である、此處は往時數多の小島を埋立て市街地とした所で、良い具合にプリンス船渠、ビクトリア船渠次でアレキサンドラ船渠等が出来た、船車の連絡もバルラー岸壁で頗る便利に出来て居つた、併し印度の政治問題は紛糾して居つた、人民有志の意見は印度統治に就て色々と研究の結果濠洲やカナダの如くドミニオンにして、總督は英國皇帝から任命し、政治の責任者としては印度議會に多數の黨員を出して居る黨派の首領を當らしめ其の黨員から數名の大臣を出すといふ制度にしたいといふのである、之を主張する一黨の旗頭は有名なるガンヂーである、彼は嘗て英國で法律を修めバリストルとなり辯護士をやつて居たのである、今一人マドラスの郊外にネルーといふ人が其の息子と共に赤青白の三色旗を揚げて同様の運動をして居る、赤は

インドウ、青はモスレム、白は白人で此三者が同盟して政治を改良するといふのである。

併かし英國では彼等の主張するドミニオン政治は未だ時機にあらずとして居る、恰かも米國がフイリツピンの獨立に對し尙早なりといふに似て居る、蓋し印度には普通の人民のみでなく、昔からラヂヤ、マハラジャ等の王族侯族が相當に多數あつて地方的事項は教育等迄も權限を有して居るから一朝ドミニオンの制度になると今度は夫れ等の方面から紛騒が持揚がつて來るといふ心配があるから之にも留意する必要があるやうにも思はれる。

**スラバヤ**には九月二十七日晝前に着いた、此處はジャバの商業地として著しく發達して來た、日本人經營の雜貨店も大小數十軒あり岡野や久我などは堂々たるものである、私は此處から自動車でトサリといふ山に登つたが、輕井澤に似た有名な避暑地で立派なホテルもあり日曜には皆自動車で登山し保養するのである海拔六千呎あるから輕井澤の約倍の高地で實に涼い、そこから自動車を捨て、椅子駕籠

で九千三百呎のペナンヂヤンに登つた、頂上のバンガロに着いた時はもう夕暮だつたけれども折柄月明のことゝて其風景は實に絶妙で眼下には又ブルーム火山の噴火口が五つも六つも見へ其のまたブルームを取圍んでサンド・シー即ち砂の海(噴灰燒土の細砂)が風で波を打つ眺めは他で見られぬものであつた、其夜は山上で一泊して翌日トサリに下山した、此處の佐竹寫眞館は仲々隆盛にやつて居た、トサリから自動車でスラバヤに降る途中で糖業試験所を訪ねた以前臺灣總督在任中に技師を派遣して研究指導を依頼した緣故等もあつたから、スラバヤには日本人會館や小學校等も出來て居た、九月三十日午前四時旅館を發つてグーベン驛から急行車でソロに向ひ九時三十四分に着きました。

**ソロ**驛では州知事の代理に出迎へを受けたので衣服を改めて知事の官邸に赴いたが病中とのことで副知事が代つてス、ハナの宮殿へ案内された、ス、ハナとは最高位の人と云ふ意味の由で、俗に王様などいふのと同意義と思ふ、ソロには和蘭政府の州知事が居る、外國人がス、ハナに謁見



するには州知事が案内する定めのお趣であるが知事は病氣のため今回は副知事が私と同乗して御殿の車寄せに着くと、王様が向ふからやつて来て握手しジャバ語で語り出した、通譯は副知事である、宮殿では王様が眞中に坐つて、私は其右に、副知事は其左に坐つた、御后は副知事の左方の椅子に就かれ、私の右方には王族始め侍女多數座を占め、御后の左方には侍従武官、大臣、式部長官といふ格の人々が椅子に就き、皆正装して並んだのであるから實に装嚴美觀であつた、廳で茶、煙草、酒が運ばれた、其の接待の間に奥の方から年を取つた女が四人隣行正禮して座に着くと、今度はサロンを長く引いた婦人が四人弓矢を持つて現はれた、そして勇壯な舞を始めたが之は歴史的の舞であつて最後にピストルを持ち出して何か戰鬪的の劇を演じ、次で九人のダンサーが現はれ支那音律に酷似せる樂の音に連れて踊り出したが、王様が立つて何か言はれると皆奥の方の食堂に行き王様と御后と私と副知事四人分は全部金製、他は皆銀器で、酒器や煙草の蓋まで私達のは金であつた、そし

て王様が何か述べられたが夫れは私の來たのを喜ぶといふ意味だつた由である、次でガバーナーが挨拶を述ぶる慣例と云ふので副知事が瓜哇語で答辭のやうなものを述べた。

食事が済んで以前の廣間に歸ると今度は男女二名宛四人出てレビウのやうな事を始めた、其時王様は歐洲各國から贈られた數十の勳章を胸に飾つて居られ、「お前は外國からの勳章が幾つあるか？」と聞かれた、次で「俺は大抵の國の勳章は貰つて居るが唯お前の國の無い」と言はれた、副知事も言葉添へて、王様は日本の勳章が一つ缺けて居る事を遺憾として居るから心配して欲しいと語つて居つた。私はソロから自動車でブラバノンの佛蹟見物に行きまた自動車でデョクジャに向つた。

デョクチャに着いたのは九月三十日の薄暮でもあつた、此處もソロ同様土人市街であるが人口も多く町幅も廣く繁華である、日本人の商店も立派なのがあり中でもソロの小川氏、デョクチャの澤部君など成功者を見ました、其處で私澤部氏の案内で水城を見物した、之は昔の王城の要害で

戰時に水を引いて防禦する設備の遺蹟である、此處から三十哩の處に世界的有名なボロボトールの佛蹟がある、五階建で中央の最高所に大塔婆があり之を圍りて小塔婆が數箇ある、中には石佛が入つて居る、第二階の廊壁には佛一代記の彫刻が實に功妙を極めて居る、廻廊の一邊は五百三十呎、基礎の彫刻は延長二哩を超へ外面の處々に佛像が彫刻してある、十月一日汽車でデョクジャを出發した、汽車は次第に高原に上り夜に入つてバンドンに着いた、立派なホテルも多く避暑地として有名である、此處には無線電信電話の設備があるので私は滞在中に伯林の知人と話などした、兵營、天文臺、大學等もある、附近のマラバル山からはキニーネ(規那)を産する、私は十月三日バタバヤに向つてバンドンを發つた。

**バタバヤ**には日本人が多い、郊外にバイテンゾルグの有名な植物園がある、立派な總督官邸もある、蘭領印度に居住する日本人は總數六千一百十五人で、バタバヤには五百九十六人、ストラバヤには五百二十五人居る由である、蘭領印

度會議副議長ウエルテル氏は日本蘭領印度協會長である、蘭領印度會議長は總督であるが事實上はウエルテル氏が處理して居る、我國の日本蘭領印度協會長は近衛公で私が副會長である等の關係からウエルテル氏私邸では大臣も植民地會議を受けた、日本領事館のレセプションには大臣も植民地會議長も日蘭協會長も知事も司令官も皆一堂に會して頗る盛會であつた、また日本人會からも招かれて會館で一場の講演を試みなどしました、そして十月六日の正午K・P・M汽車のタスマン號でバタバヤを出發し、八日の午前六時にシンガポールに着きました。

**シンガポール**の日本人會も仲々盛んであります、九日には石原兄弟經營の鐵山と鐵坑を見ました、創業十年餘であるが成績は頗る宜しい、其晩は小蒸汽でバトバハに赴き芳陽館に一泊し、翌日歸る途中で熱帶產業會社の護謨園を參觀した、新嘉坡では知人が多く茂垣領事、三宅總領事、石原氏兄弟、商船支店長、臺銀支店長以外の招待は己むを得ず辭退したやうな次第である、十日の午後四時新嘉坡岸壁

から大阪商船のビルマ丸でスマトラに向つた。

スマトラ・デリーを望見したのは十月十二日の未明で、

七時頃になり岸壁に着くと其處には内藤領事其他出迎の諸氏に遇ひ、内藤領事の自動車でメダンに参り同領事の好意で其官邸に宿る事になりました、それからスマトラ興業會社の護謨園を視察することにし自動車で岩田支配人と同乘スマトラ護謨拓殖會社に立寄り種々の事業狀況を聴き、二時半ブールマンデーに着き、スマトラ興業の農園を視察十三日十時にはA.V.S農事試験場を參觀した、午後デリー煙草會社の工場及社宅を視察した、晚にはまた私の爲めにレセプションを領事館で催され頗る盛會であつた、南洋協會の支部大會もブールホテルで開かれ盛會でした、十四日午前に野村農園の林君に伴はれてメダンからブラスタに行きました、此地は海拔四千七百呎ありシナベンとかシバヤックと云ふ噴火山があり立派な避暑ホテルも別荘等もあつた、以前此地のバンドック人は人喰族として恐られて居つたのであるが近來は人喰をやめた由である、メダンには

日本人が三百七十人餘居てスマトラ護謨、南洋護謨、スマトラ興業、ボレシア護謨、プキツト珈琲、南和公司、東山農事其他諸會社經營に従事してゐる。十月十五日午後三時メダンからベラワンデリーに行きクワラ號に乗船して同五時出帆十六日の朝ペナンに着きました。

ペナンは蛇を以て有名である、少し錢を與へると蛇使ひが蛇に卵を吞ましたり様々なことを見せる、丘上に登るケイブルカーもある、植物園もある、東郷元帥の署名した物のある極樂寺といふ非常に奇麗な寺もあるが何分にも急坂を随分登つて行くので觀覽者皆流汗瀧の如しであつた、夕暮近くになると猿が澤山出て來て面白いとの事であつたが日本人會の依頼で講演等約束をして置いたので其れは見ず下山した、十七日朝ペナンを發して海峽を渡り、ブライから暹羅の急行列車に乗つた、マレーとサイアムの國境は約百五哩、それからバンコック迄九百八十九哩を有し車中で一泊した譯であります。

バンコックに午後二時半着きますと暹羅政府の高官を始

め我矢田公使、三井支店長、日本人會長、其他多勢の出席に接し直ちにビアタイに投宿する事になりました、此建築物は従前離宮であつたのを鐵道省に移管してホテルに供用した譯であります、盤谷府は古來より寺の都會と稱され著名な寺院が多い、また東洋のヴェニスと稱せられ水の交通が頻繁である、到着の夜は日本公使館に招待され、外務大臣、通信大臣其他多數の高官連と語るの機會を得ました。

大宮殿の各室には種々の佛像が安置されてある、現在の王宮は洋式で正面にスローン・ホールといふ大理石の大建築があつて儀式の折に使用される、二階の奥の廣間の天井には星が光輝を放つて觀る人の位置により見えたり見えなかつたりする、その建築より少し入つた所に王宮があつて私は其處で國王に謁見仰付られました、國王は他の王族御同様英吉利で教育を受けられたので、流暢な英語で種々御下問がありました、盤谷府中でも最も貴重な佛像は丈三尺位のエメラルドの佛像である、エメラルドはダイヤよりも高價といふから非常なもので、ビルマの來襲も此エメラル

ドが其一因をなして居たといふことである、王宮の後庭に王宮必要の動物として白象が飼はれて居りました。

日本では寺へ行くに御賽錢を上げるが、此處では金箔を持參してお釋迦様の身體に貼り付けて來るから釋尊像は綺麗である、以前メナン河には道路橋はなく鐵道橋のみで他は水運に依つて居つたが今丁度道路橋の架設中であつた、私は政府の小蒸汽で下流から上流まで遡航して見た此附近には水田が非常に多く従つて澤山の水牛を使つて耕作して居るのを見ました、十月二十三日バンコックから汽車で國境に到るとアラシャと云ふ驛がある、其處まで出迎へのカサート君と同伴してサイゴンに向ひました。

**アンコルワット**には今より一千餘年以前にクメール人の造つた石造の大寺院があつて今や世界的古代藝術の模範と稱せられ多數専門家や學者研究家等が訪れて居る、往昔日本の坊さんが印度に經文を取りに行つたとか或はお釋迦様へお詣りしたとか云ふのは實は此處まで來た様であるとの説が確からしむ、此寺院の周圍には濠があつたが、何時の

頃か築堤が損じて汎濫し本堂や拜殿等迄浸水し、遂には樹木が成長して大密林を造り、久しる間此の名寺院も判らずにあつたのが、凡そ七十餘年前に發見され段々訪づれる人が多くなつたといふことである、又此寺から遠からぬ所にアンコロ・トムといふがある、其れはタメル人の王族が統治して居た時代の宮殿だそうで此の周圍には寺院の如き建築物が遺り大なる佛像が幾つも彫刻されて世界的有名な研究對象物となつて居る。フノムベンはカンボディアの首府で王様が居られるから私は其處へ行つて見たけれども、王妃の喪中で謁見は出来なかつたが王宮の中は案内された其の翌日サイゴンに出た。

**サイゴン**は有名な米産地で各地に向つて輸出して居る、サイゴンの河續きにションと云ふ支那人市街があつて貿易が繁昌して居る、河邊には大規模な精米所が幾つもある、私は十月二十八日の夜サイゴンを出發して汽車でニアトランに向ひ、二十九日午前ニアトラン驛から聯絡自動車でツィランに向ひ夜半に到着した、此處も亦河に沿ふた處で附

近隨一の繁華な都會である、往昔日本人が貿易に往來して居たといふ事で、日本人の墓なども遺つて居る、日本人貿易の繪の寫眞がハノイの領事館に有つた、十月三十日汽車でツィランを發し翌三十一日ハノイに着いた。

**ハノイ**は總督の所在地で佛領印度支那統治の都府である私は總督から午餐に招かれたので、種々關稅問題に就て意見を交換したが、日本品に對する最高率の關稅も佛國資本家保護の立場から改正は容易ならぬやうであつたから、話八割位いで談を他に轉じた、總督官邸は立派である、市街も佛國式に清潔であつた、附近に安倍ノ仲麿が地方長官として赴任して居た舊蹟が遺つて居る、其他昇龍城や眞武館等を見て十一月三日ハノイを去りハイフオンに向つた、ホテル・ユーロップで食事を饗せられ、ホテル・ド・コンメルスに宿泊した、翌四日早朝無煙炭の産地として有名なホンデーに出掛けた、茲に接近するベタロン灣は我國の松島を大きくしたやうな風光明媚の處である、其の外側には天の橋立と云つたやうな島が細長く續いて居る、ホンデーの對

岸ワツチャイといふ處に西原といふ旅館兼料理店があつて  
 久し振りに日本食で午餐を喫した。十一月五日大阪商船の  
 メナド丸で香港に向ひハイフオンを出發した。

ホンコン近くには屢々海賊が現はれるので、船長室など  
 鐵格子で圍み、まるで動物園のライオンやタイガのやう  
 である、此邊の海賊は船長や運轉士を脅迫して船を彼等の  
 欲する處へ持つて行かせる、英國人の調べたものを見ると  
 千九百二十年から十年間に數十隻の船が海賊の災害を蒙つ  
 たと書いてあつた、英吉利のハイチンといふ船が先頃此附  
 近で海賊に襲はれた時の如きは、初め船客として乗込み、  
 都合の好い場所に來た頃海賊に早變りしたのであるが英國  
 船では船長も運轉士も武裝して鬭つたので、海賊は敗北し  
 持つて來た石油罐に火を點けて逃げたがそのため英國船は  
 半燒の災を被つたといふことである。日本船では印度の巡  
 査を頼んであるが我國のセレベス丸も二三年前此等海賊に  
 襲はれ酷い目に遇つたことがある。メナド丸は途中で北海  
 と海口に寄港したから私は上陸して市街を見物した、十一

月九日海賊にも遇はず無事香港に着いた、其翌日汽船ウエ  
 ネチアでマカオに行つて見た。

マカオは私に取つて初めての處である、此處の經濟は賭  
 博稅から成立つて居る、今年の賭博興業の權利は入札の結  
 果百四十萬圓であつたと聞いた、此權利を得た人は、他の  
 希望者に幾分宛かの金を出さして賭博場を開く權利を與へ  
 ることが許されてある、此マカオから陸續きで廣東に行く  
 道がある、其處に孫逸仙の生れた所があるので、民國政府  
 は中山記念の爲め此處に大きな港を築いて外國船を其處へ  
 寄せやうと計畫して居ると聞た、而して其裏面の目的とし  
 ては、今旺盛を極めて居る香港の繁榮を自分の方に收めや  
 うと云ふ劃策であるらしく聞いた。

上海からマチソン號といふアメリカン・メール・ラインの  
 船で十一月十六日無事神戸へ歸着しました。交通上の詳細  
 な事項に關して尙申述することも有りますが、あとに東京市  
 の近土木局長より御話も御座いますので、私の御報告は之  
 で止めて置きます。(終)